

和田地域づくりを考える会ワークショップの概要（中間支援班）

| | | | | | |
|------|---|------|--------------------|------|---------------------------|
| 開催日 | 平成 21 年 10 月 23 日 | 開催場所 | 和田コミュニティセンター 3階ホール | | |
| 参加人数 | 8人 | 開催回数 | 3 | 開催時間 | 午後 1 時 30 分 ～ 午後 4 時 30 分 |
| 参加者 | 会員：辻・樺原（八）・長島 千葉工業大学学生：波見 市：座間・結縄 支援員：田島・川上 | | | | |

グループテーマは、鎌田先生から示された「協働事業の運営」は、概念的でわかりづらい、行動計画を作りやすい、「地域づくり協議会の運営」とした。

発表者は、グループ員の推挙で「長島さん」に決定。

テーマに辻さんの意見で、「楽しく明るく」を加える。

ワークショップ形式で、協議会運営に必要な活動をアイデアだし・・・・・・・・

協議会の運営というテーマでは、今回のシート（時間軸）では無理があるとして、協議会としてどのような活動をすればいいのかに絞り行った。

今回は、具体的な活動案はなく、おおまかな活動計画となった。今後の詳細活動への具体化が課題。

メンバーからは、各地域（旧町村）の連携が必要だという意見もあり、まずは、足元（基盤）の議論からはじめるという意識が必要であることと、活動の目標を定めることの重要性が浮き彫りとなった。

「発表」 長島さん

皆さんの活動をどうやって結びつけていこうかというテーマで取組んだ。内容が難しく最初は意見が出なかったが、楽しく明るく考えようと、「楽しく明るく地域づくり協議会の運営」というテーマとした。

活動計画としては、

- ① 各グループの代表者の方と私たちで、運営組織を立ち上げよう。
- ② 考える会に出てきていない人、活動している団体の方に、情報発信をして加わってもらおう。
- ③ 集まった人たちで、再度地域課題、提案などを確認しよう。
- ④ 膝を交えての話し合い、話題づくりのイベント（例えば飲み会など）
- ⑤ 中間支援組織としての強化
- ⑥ 各グループのサポート
- ⑦ 活動支援としての振り返り、見直し
- ⑧ 資金の確保

「鎌田先生のコメント」

ここの班は、はじめて地域づくり支援員の2名の方が入られて、大変課題が難しいですよ。実際、最初ははどうしたらいいんだろう。という戸惑いのところばかりで、どうなるのかと思っていたんだけど、見事だなど思うことは、楽しく、明るく、暗い中で楽しく明るくというテーマをつけたんですね。そこからがスタート。楽しく明るくの中からアイデアが出て、一杯飲みながらでもいいんだよとか、特に膝を交えて中間支援という言葉だと難しいんですね。ここの中間支援は膝を交えてこれがキーワードに

なるのかなと今日は宝の言葉のように聞こえました。このようなところをやれば、膝を交えて原点、キーワードになっていく。和田の中間支援は、小難しい中間支援という言葉を使わなくても大変上手くいくのではないかなと思いました。大変難しい課題を楽しく明るくという意識を持っていて、2人の支援員と長島さん（若手のホープ）だと思いますので、こういう方が地域を支えてくださるのは、世代間の協働がうまくいくのではないのでしょうか。

出来るだけ具体的なテーマを設定

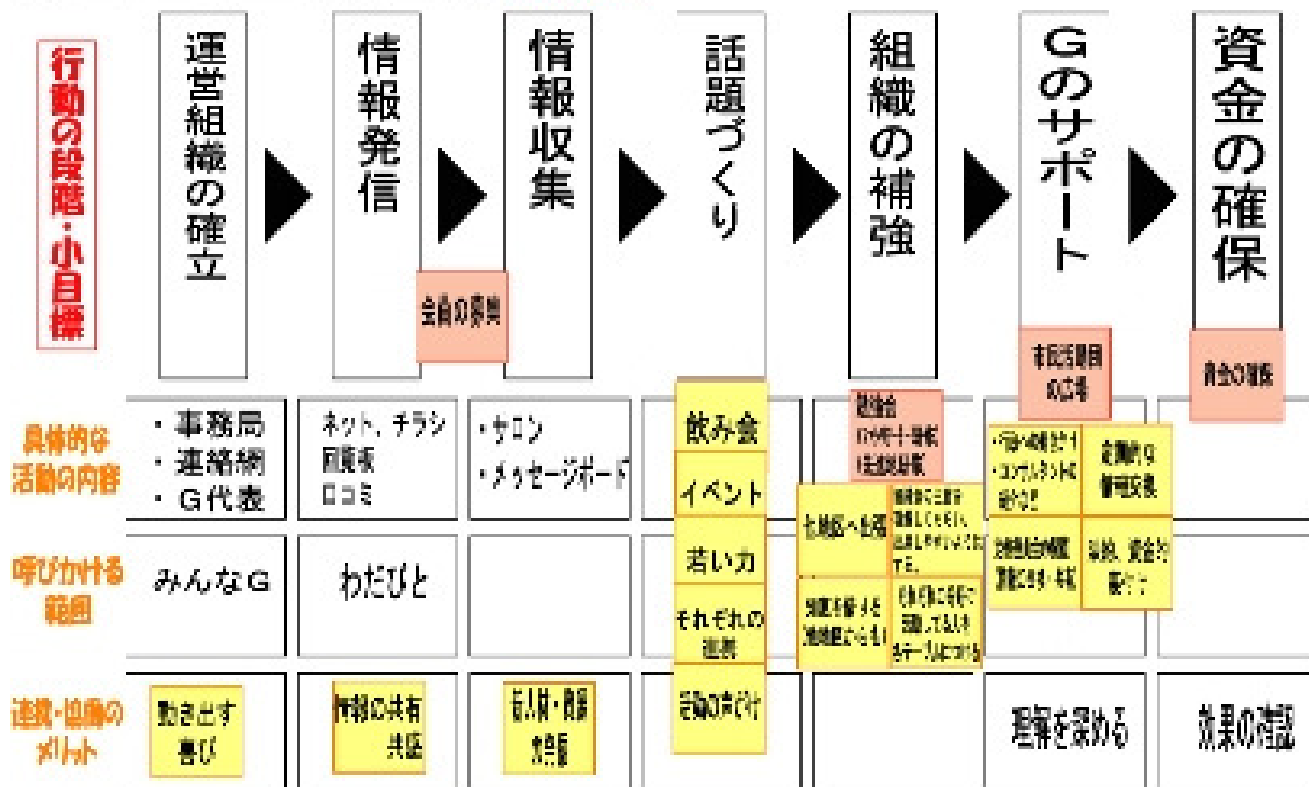
中間支援グループ：いち原・辻・長嶋・田島・川上

楽しく明るく地域づくり協議会の運営

「膝を交えて」

制作者名 結繩・座間・波見

10/23

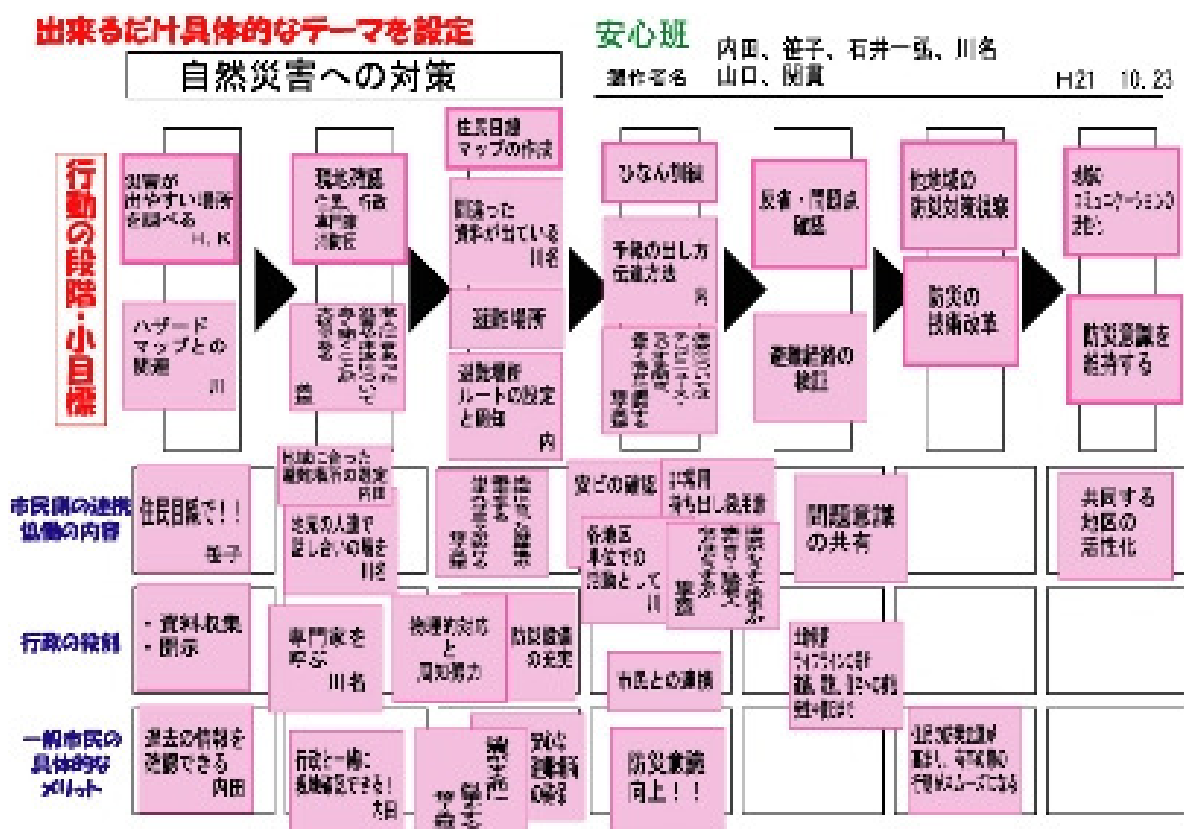


和田地域づくりを考える会ワークショップの概要（安心班）

| | | | | | |
|------|---|------|--------------------|------|---------------------------|
| 開催日 | 平成 21 年 10 月 23 日 | 開催場所 | 和田コミュニティセンター 3階ホール | | |
| 参加人数 | 6人 | 開催回数 | 1 | 開催時間 | 午後 1 時 30 分 ～ 午後 4 時 00 分 |
| 参加者 | 会員：笹子（英）・内田（座長）・・・川名 千葉工業大学学生：関貫 市：山口・石井（一） | | | | |

1. テーマ 自然災害への対策

2. 作成した活動計画（案）



3. 「鎌田先生のコメント」

この班は、たいへん情報の多いところでした。はじめは、なかなか議論が進まないなか、「津波」というキーワードを中心として対策がスムーズに出て来た。

例えば白浜地区でこうこう行っているとの市民協働の良いところが発揮され、本来の協働による行動計画が出来上がったのではないのでしょうか。

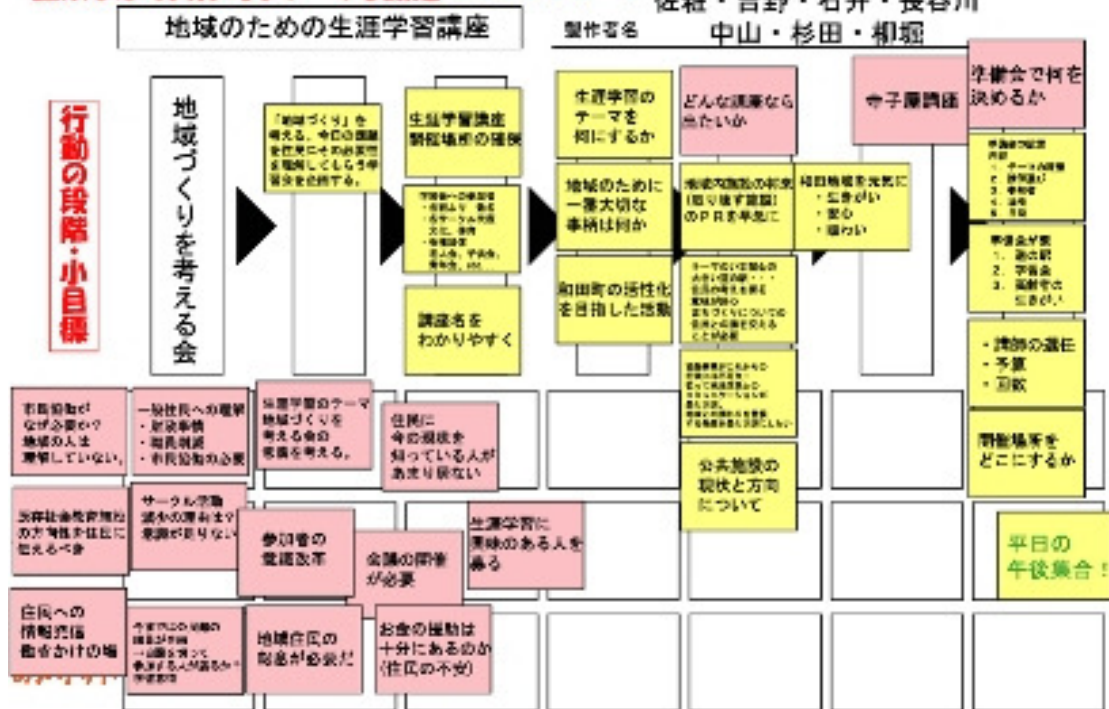
和田地域づくりを考える会ワークショップの概要（生きがい班）

| | | | |
|------|---|------|---------------------------|
| 開催日 | 平成 21 年 10 月 23 日 | 開催場所 | 和田コミュニティセンター 3 階ホール |
| 参加人数 | 7 人 | 開催回数 | 1 |
| | | 開催時間 | 午後 1 時 30 分 ～ 午後 4 時 00 分 |
| 参加者 | 会員：石井（一）、佐粧（良）、長谷川、吉野 千葉工業大学学生：柳堀 市：中山、杉田 | | |

1. テーマ 地域のための生涯学習講座

2. 作成した活動計画（案）

出来るだけ具体的なテーマを設定 生きがいグループ 佐粧・吉野・石井・長谷川
 製作者名 中山・杉田・柳堀



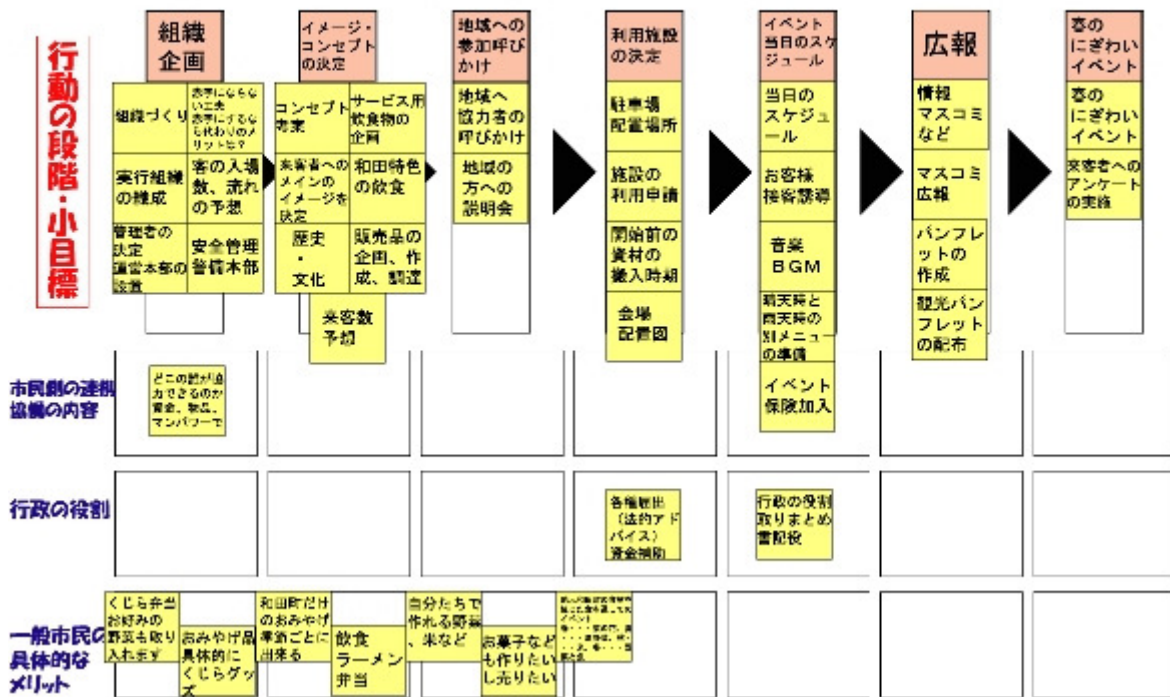
和田地域づくりを考える会ワークショップの概要（賑わい1班）

| | | | | | |
|------|--|------|--------------------|------|---------------------------|
| 開催日 | 平成 21 年 10 月 23 日 | 開催場所 | 和田コミュニティセンター 3階ホール | | |
| 参加人数 | 6人 | 開催回数 | 1 | 開催時間 | 午後 1 時 30 分 ～ 午後 4 時 00 分 |
| 参加者 | 会員：三上・高橋・原口・大木・吉田 千葉工業大学学生：笹部 市：平川 | | | | |

1. テーマ 「地域の為にぎわいイベントの開催」

2. 作成した活動計画（案）

出来るだけ具体的なテーマを設定 にぎわいグループ 三上さん、高橋さん、原口さん
 地域のためのにぎわいイベントの開催 製作者名 大木さん、吉田さん、平川さん、笹部



3. 班の主な意見

賑わいイベントに必要な行動として出た主な意見

- 組織・企画 赤字にならない工夫・安全管理
- イメージ・コンセプトの決定 特色あるイベントにする為の飲食等
- 地域への呼びかけ 説明会等が必要
- 利用施設の決定 駐車場の準備等
- イベント当日 客の誘導・天候に合わせた準備・音楽・・・
- 広報 情報の提供・パンフレットの作成
- 春のにぎわいイベント アンケートの実施

4. 「鎌田先生のコメント」

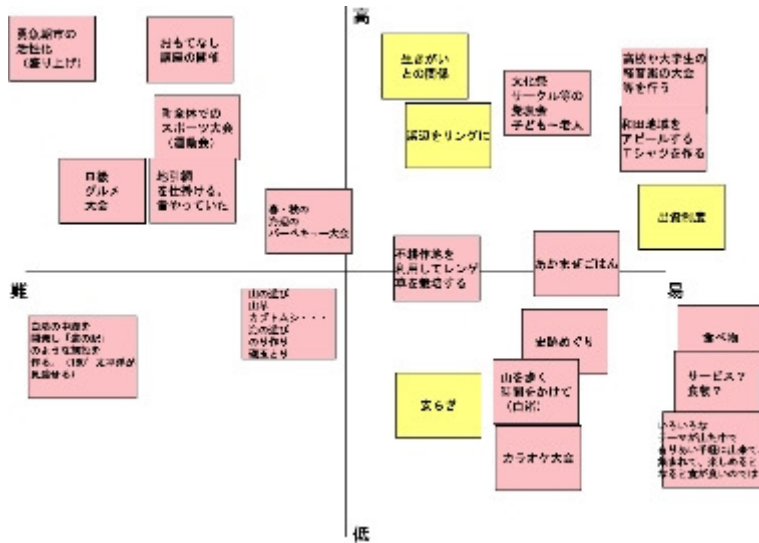
始めは特定のイベントについて話し合うところと1年をとおしてのイベントもあるのではないかと
いうことで議論がまとまらなかった。まとまったところで流れを追いかけた。どのようなイベントを行な
うにしても実施まで、今までは行政が行っていたものを自分たちでできるものは何なのか気づいた。
市民目線ならではもの「俺たちはここまではできるんだ」。行政は書類書きが得意。そういったとこ
ろを行政にお願いするといった面も見えた。前のグループのように一つのイベントに対して掘り下げて
いくといったやり方もあるし、流れを追いかけるやりかたもある。

和田地域づくりを考える会ワークショップの概要（賑わい2班）

| | | | | | |
|------|---|------|---------------------|------|---------------------------|
| 開催日 | 平成 21 年 10 月 23 日 | 開催場所 | 和田コミュニティセンター 3 階ホール | | |
| 参加人数 | 6 人 | 開催回数 | 1 | 開催時間 | 午後 1 時 30 分 ~ 午後 4 時 00 分 |
| 参加者 | 会員：安田・萩原・羽山・吉田・黒川・石井 千葉工業大学学生：辻田 市：野中 | | | | |

1. テーマ 「にぎわいを作り出すためには？」

2. 作成した活動計画（案）



出来るだけ具体的なテーマを設定

| | | | | | | | |
|----------------|------------------------|-----------------------------|------------------|------------------------|-----------|-----|-------|
| 昔料理の掘りおこし | | | | | | | |
| 行動の段階・小目標 | レシピの 調査 | 歴史 | 試食会 | 簡単な定義 | 人の決め方 | 講習会 | 朝市へ出展 |
| | 先生を深す | | 老人会への訪食 | 電報先生への ヒヤリング | 先生を招待 | | |
| 具体的な 活動内容 | 老人会への 呼びかけ | かわら版で ネタ集め | 老人会の人に 作ってもらう | 語り会 | | | |
| 呼びかける 場所 | 場所 | 広報誌に 載せる | | | 市のバス 停 | | |
| 連携・協働 のメリット | 市民館での 展示スペース の活用 | もしも使って使ら ないならどう なるかも? | 高齢者の 生きがい | 老人一子ども まで集まれる 場所 | | | 空がる |

3. 班の主な意見

意見の中で、食べ物に関するネタについての意見が多く、イベントとして開催した場合に多くの人を巻き込み、或る程度の成功を収められそうな分野でもあり、職業的に調理もする人も居たので、食をテーマ

とした。

ただの食イベントではつまらないので、地域的な特徴を出さないと成功は覚束ないというところで意見の一致を見た。

そのためにはという中で、「あかまぜご飯」（づけの刺身の混ぜご飯）をテーマとしてはいかがだろうかという中で、これをどのようにイベントにするのかということで方向性を見出した。

実現の過程の中で多くの人を巻き込むために、「老人の知恵」を生かすことが重要であろうとの意見から老人会の活用で試食や蒔蓄を聞き出すことが重要と認識した（生きがいへの波及）

市への予算どりなどの金銭的な要望も多かったが、市は自分たちの活動を進める上でいつまでもあてにはならない旨を話し、市が補助を直接支出せずともできる方法についてという方向に議論が進んだ。

4. 「鎌田先生のコメント」

この班については様々な意見が活発に出でいた。書ききれていない意見も多く、その点は残念。色々な意見を纏め上げていく中で、実施時の効果が高く、実現性の高いイベントという視点について色々な意見が出る中でよくまとまった。

生きがいで老人の知恵を借りるなど広がりも見せている点もよい。